

# ADMS-13

## (FTM-6000/S 用メモリー編集ソフト) インストラクションマニュアル

ADMS-13 は FTM-6000/S のセットアップメニュー設定やメモリー内容、メモリータグなどをパソコンで設定や編集することができるソフトウェアです。

# 目次

はじめに (概要) .....	2	設定 .....	19
本書の記号について .....	2	・セットモード設定 .....	19
ソフトウェア使用条件 .....	2	・ツールバー .....	20
システム要件 (動作環境) .....	3	・ステータスバー .....	20
対応 OS .....	3	ウインドウ .....	20
CPU .....	3	<b>各テンプレートタブの設定項目について ....</b>	<b>21</b>
RAM(システムメモリ) .....	3	<b>標準/PMS メモリー .....</b>	<b>21</b>
HDD(Hard Disk) .....	3	標準/PMS 専用メモリータブの	
必要機器 .....	3	設定項目について .....	21
ADMS-13 セットアップの流れ .....	4	VFO .....	23
商標 .....	4	VFO タブの設定項目について .....	23
<b>ADMS-13 のセットアップ .....</b>	<b>5</b>	HOME .....	25
準備 .....	5	HOME タブの設定項目について .....	25
ADMS-13 のインストール .....	5	<b>トラブルシューティング .....</b>	<b>27</b>
FTM-6000/S とパソコンをケーブルで接続する ...	7		
<b>ADMS-13 を起動する .....</b>	<b>8</b>		
初期画面 .....	8		
タブメニュー .....	9		
メニューバー .....	9		
通信メニュー (FTM-6000/S との間で			
データを取得または送信する) .....	10		
・COM ポート設定 .....	10		
・FTM-6000/S からデータ取得 .....	11		
・FTM-6000/S へデータ送信 .....	12		
<b>メニューバー .....</b>	<b>13</b>		
ファイルメニュー .....	13		
・新規作成 .....	13		
・開く .....	13		
・閉じる .....	13		
・上書き保存 .....	13		
・名前を付けて保存 .....	13		
・インポート .....	14		
・エクスポート .....	14		
・印刷 .....	14		
・終了 .....	14		
編集メニュー .....	15		
・元に戻す .....	15		
・切り取り .....	15		
・コピー .....	15		
・貼り付け .....	15		
・検索 .....	15		
・次を検索 .....	16		
・チャンネル移動 .....	16		
・チャンネル挿入 .....	16		
・チャンネル削除 .....	16		
・チャンネルクリア .....	16		
・上へ移動 .....	16		
・下へ移動 .....	16		
・周波数帯追加 .....	17		
・ソート .....	17		
通信メニュー (FTM-6000/S との間で			
データを取得または送信する) .....	18		
・FTM-6000/S からデータ取得 .....	18		
・FTM-6000/S へデータ送信 .....	18		
・COM ポート設定 .....	18		

## はじめに(概要)



ADMS-13 は、FTM-6000/S のメモリーチャンネルの内容やセットアップメニューの設定などを、パソコンを使って効率よく簡単に編集できます。

オプションの PC コネクションケーブルを使用して FTM-6000/S とパソコンを接続して、メモリー内容やセットモードの設定などをパソコンで編集して転送することができます。

- メモリーチャンネル、VFO、HOME チャンネルなどの様々な編集  
(周波数、メモリーネーム、スケルチ設定、レピータ設定、送信出力など)
- パソコンの画面で分かりやすい表示のセットアップメニューによるトランシーバーの各種設定
- 検索やコピー、移動、ソートなど使いやすい編集機能

## 本書の記号について

本書は、下記の記号を使って、重要な情報が記載されていることを示しています。

記号	説明
	このアイコンは、お客様に理解して頂きたい注意と警告を示しています。
	このアイコンは、役に立つ情報やヒントを示しています。

## ソフトウェア使用条件

下記に示す“ソフトウェア使用条件”をよくお読みいただき同意の上で本ソフトウェアをダウンロードしてください。

- ・ソフトウェアの著作権は当社が保有しております。
- ・当社の許可なく取扱説明書やソフトウェアの内容の一部、または全部を複製、改変したり、電子メールに添付して送信したりすることはできません。
- ・取扱説明書やソフトウェアを利用して、金品との交換はできません。
- ・本ソフトウェアを使用した結果についての責任は、いかなる場合でも負いません。

ADMS-13 を使用するには、お使いになるパソコンにソフトウェアをインストールする必要がありますので、このマニュアルをよくお読みになり、ソフトウェアをインストールしてください。

## システム要件 (動作環境)

### 対応 OS

Microsoft® Windows® 11  
Microsoft® Windows® 10  
Microsoft® Windows® 8.1

### CPU

OS (オペレーティングシステム) のシステム要件を満たす性能を持つ CPU

### RAM(システムメモリ)

OS (オペレーティングシステム) のシステム要件を満たす容量以上の RAM (システムメモリ)

### HDD(Hard Disk)

OS (オペレーティングシステム) のシステム要件を満たす容量以上の HDD (ハードディスク)  
なお、OS が動作する為に必要な空き容量とは別に、プログラムを実行する為に、約 50MByte 以上の空き容量が必要です。

## 必要機器



ADMS-13 は FTM-6000/S に付属の USB ケーブルでは使用できません。

### ● PC コネクションケーブルでパソコンの USB 端子に接続する場合

オプションの WIRES-X コネクションケーブルキット **SCU-58** または **SCU-40**

※SCU-58 または SCU-40 を使用する場合には、必ずケーブルをパソコンに接続する前に USB ドライバーをインストールしてください。USB ドライバーは当社のウェブサイトからダウンロードできます。詳しくはインストールマニュアルを参照してください。

#### 対応 OS

	Windows® 11	Windows® 10	Windows® 8.1
SCU-58	○	○	○
SCU-40	×	○	○

※SCU-40 は、SCU-58 と同じドライバーソフトウェアを使用できますが、Windows 11 ではご使用になれません。

### ● PC コネクションケーブルでパソコンの COM 端子に接続する場合

オプションの PC コネクションケーブル **CT-163**

## USB ポートまたは COM ポートを備えたパソコン

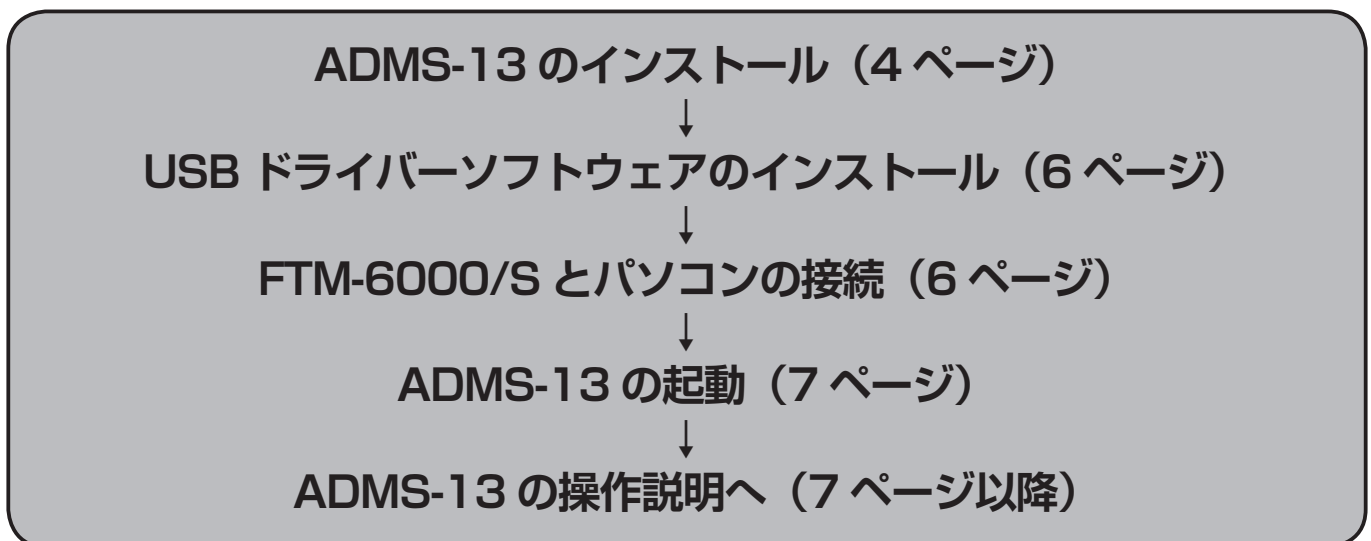
SCU-58 または SCU-40 を使用する場合は USB ポート (USB1.1/USB2.0)、または CT-163 を使用する場合は COM 端子 (RS-232C ポート) を備えたパソコンが必要です。

## 商標

Microsoft®、Windows®、Windows® 8.1、Windows® 10、Windows® 11 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

## ADMS-13 セットアップの流れ

ADMS-13 を初めて利用する場合の手順は、下記となります。



# ADMS-13のセットアップ

ADMS-13 のインストール手順を、Windows® 10 を例に説明します。

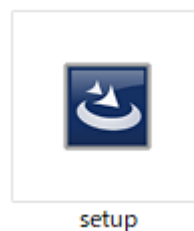
## 準備

- ◎ あらかじめ、当社のホームページ ([http://www.yaesu.com/jp/amateur\\_index/product/ftm-6000/download.html](http://www.yaesu.com/jp/amateur_index/product/ftm-6000/download.html)) よりメモリー編集ソフト ADMS-13 ソフトウェアと SCU-58 または SCU-40(PC 接続ケーブル (USB)) デバイスドライバーをダウンロードしてください。
- ◎ ダウンロードした zip ファイルを右クリックして、[全てを展開] をクリックして、ファイルを解凍します。

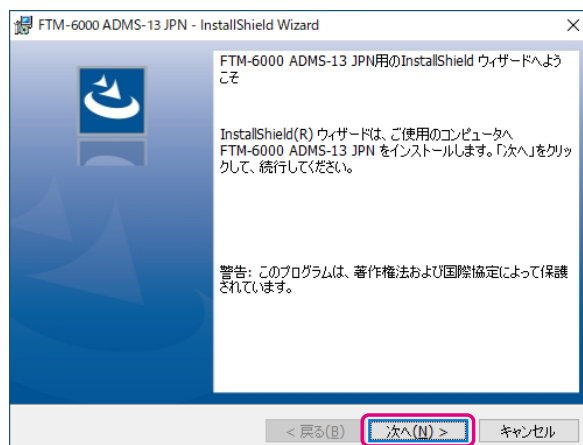
## ADMS-13 のインストール

1. パソコンの電源を入れ、Administrator (管理者) 権限でログオンします。
2. フォルダー内にある「**setup.exe**」をダブルクリックします。

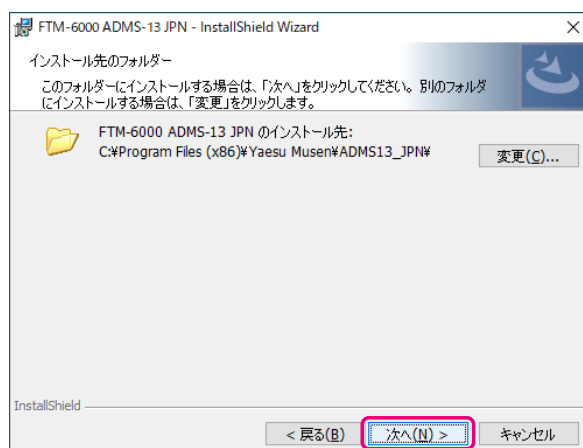
「.NET Framework」のインストール画面が表示された場合は、画面の指示に従ってインストールします。



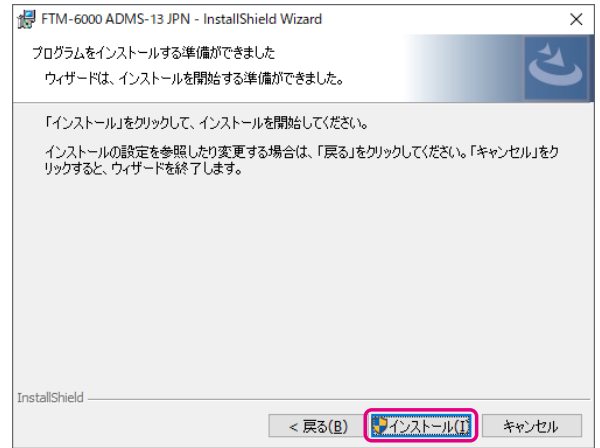
3. ダイアログが表示されるので、「次へ」をクリックします。



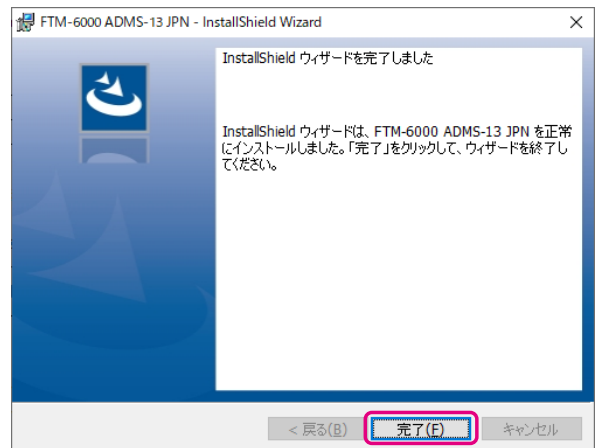
4. インストール先フォルダーを指定し、「次へ」をクリックします。



5. 「インストール」をクリックします。  
「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示された場合には、「はい」をクリックします。



6. ソフトウェアのインストールが行われ、右のダイアログが表示されたら、「完了」をクリックしてインストールを終了します。



### ● ADMS-13 のアンインストール

1. FTM-6000/S とパソコンを接続している場合は PC コネクションケーブルを取り外します。
2. パソコンのデスクトップから「スタート」⇒「設定」⇒「アプリ」をクリックします。
3. 「FTM-6000 ADMS-13 JPN」をクリックし、「アンインストール」をクリックします。
  - ・「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示された場合には、「はい」をクリックします。
  - ・アンインストールが開始されます。以上でアンインストール作業は終了です。

## SCU-58/SCU-40 ドライバーソフトウェアをインストールする

---



ADMS-13 は FTM-6000/S に付属の USB ケーブルでは使用することはできません。

---

オプションの WIRES-X コネクションケーブルキット SCU-58 または SCU-40 を使用する場合に、最初に一度だけ必要な操作です。

SCU-58/SCU-40 の USB ドライバーを当社ウェブページ (<http://www.yaesu.com/jp/amateur/index/product/FTM-6000/download.html>) からダウンロードして、インストールマニュアルに従って USB ドライバーをインストールしてください。

## FTM-6000/S とパソコンを接続する

---

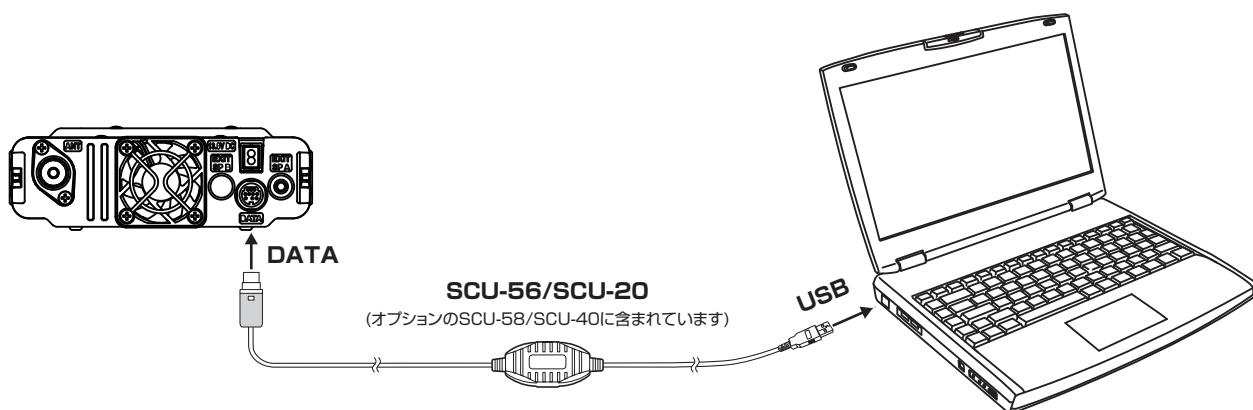


必ず SCU-56 または SCU-20 をパソコンに接続する前に専用の USB ドライバーをインストールしてください。

---

PC コネクションケーブル **SCU-56** または **SCU-20** (WIRES-X コネクションケーブルキット **SCU-58** または **SCU-40** に含まれています)、または PC コネクションケーブル **CT-163** を使用して FTM-6000/S リアパネルの DATA 端子とパソコンの USB 端子または RS-232C 端子 (COM ポート) を接続します。

下図は SCU-56 または SCU-20 を使用したパソコンの USB 端子への接続例です。CT-163 を使用する場合は、パソコンの COM 端子 (RS-232C ポート) に接続します。



## ADMS-13を起動する

1. デスクトップの「FTM-6000 ADMS-13 JPN」のアイコンをダブルクリックしてADMS-13を起動します。

初期画面が表示されます。

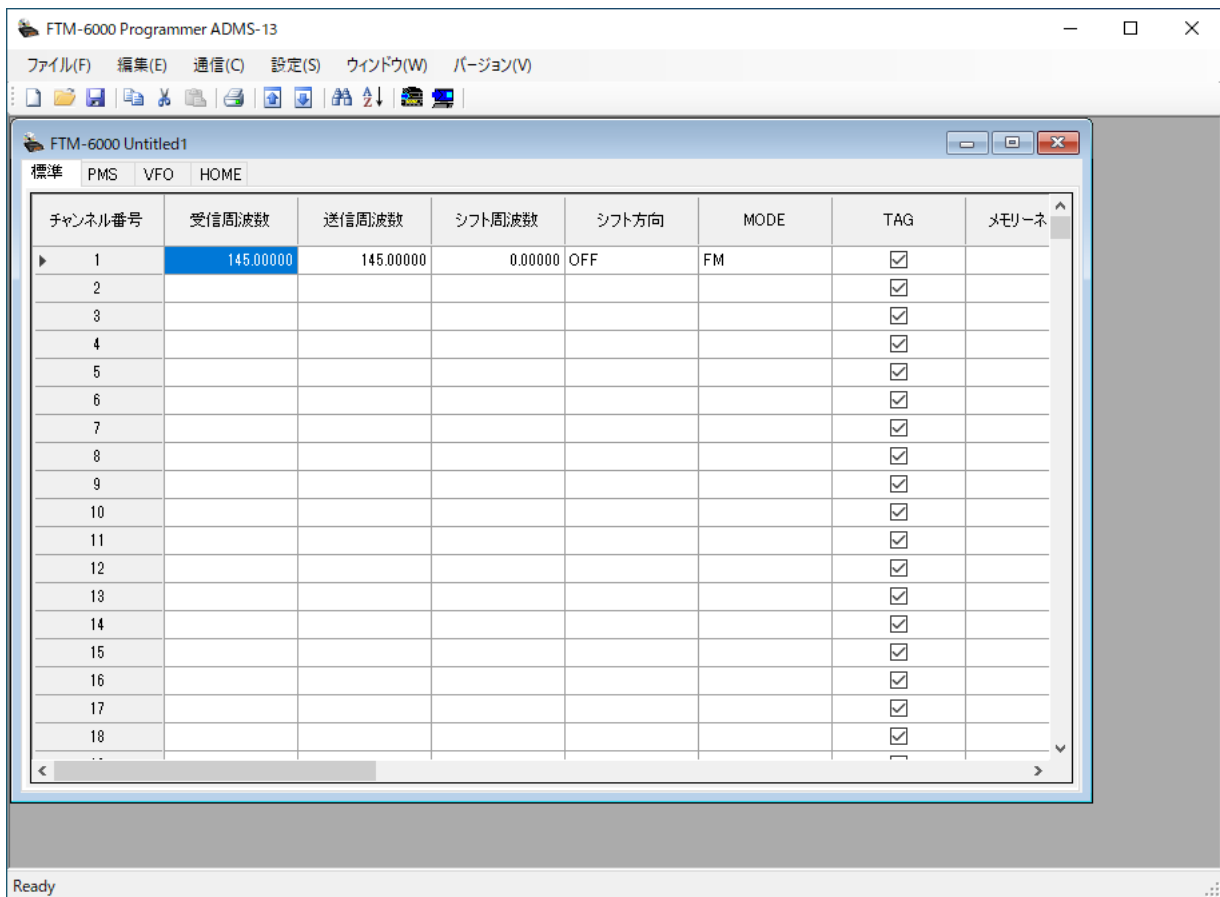


FTM-6000  
ADMS-13 JPN

### ● ADMS-13を終了する

ADMS-13を終了するには、「ファイル」メニューから「終了」をクリックするか画面右上の「×」をクリックします。

## 初期画面





## タブメニュー


初期画面の上部のタブメニュー（標準、PMS、VFO、HOME）をクリックすると、メモリーチャンネルやVFOなどの周波数リストを表示させて編集することができます。

 詳細については、「各テンプレートタブの設定項目について」（20 ページ）をご覧ください。



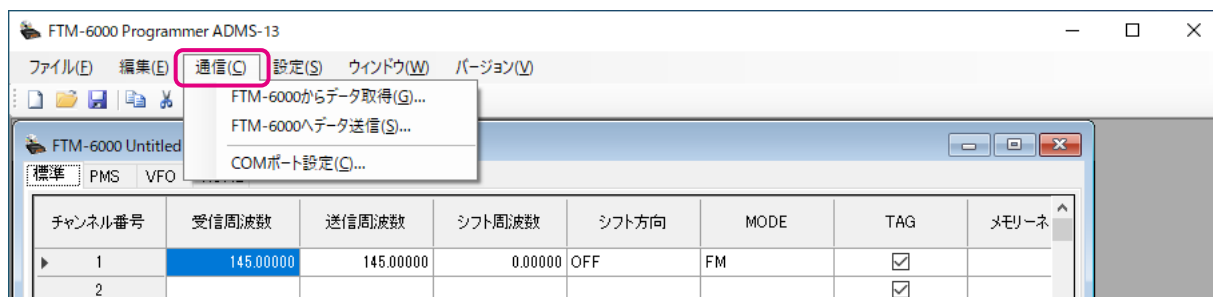
## メニューバー

メニューバーをクリックすると、データファイルのインポートやエクスポート、FTM-6000/S とのデータ取得、データ送信、セットモードの設定などができます。

 詳細については、「メニューバー」（12 ページ）をご覧ください。



## 通信メニュー (FTM-6000/S との間でデータを取得または送信する)

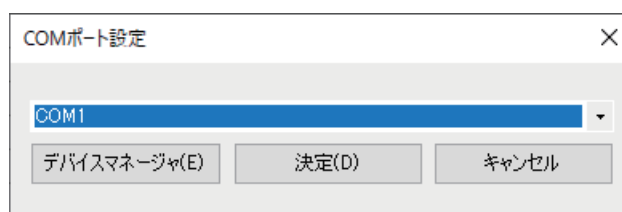
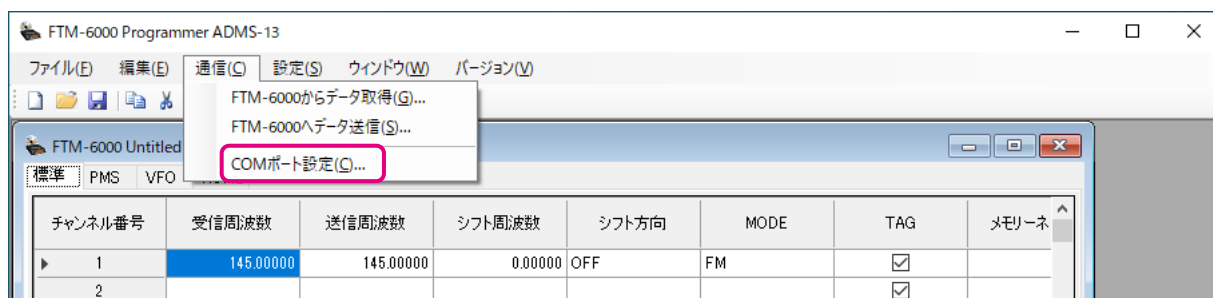


### ● COMポート設定



最初に一度だけ必要な設定です。COMポート番号が変わらない限り、次回以降はこの設定は必要はありません。

1. SCU-56 または SCU-20、CT-163 を使って、FTM-6000/S とパソコンを接続します。
2. メニューバーの「通信」→「COMポート設定」をクリックし、FTM-6000/S を接続した COMポートを選択します。



### ● SCU-56 または SCU-20 を使用する場合の COMポート番号の確認方法

もし COMポート番号が分からない場合には、下記の手順で確認できます。

1. SCU-56 または SCU-2 を使って FTM-6000/S とパソコンを接続します。
2. [デバイスマネージャ] ボタンをクリックして、表示されるデバイスマネージャの画面で [ポート (COM と LPT)] をクリックします。
3. 表示される下記の COMポート番号 (COM \*\*) を使用します。  
SCU-56 の場合：“Prolific PL2303GC USB Serial COM Port (COM \*\*)”  
SCU-20 の場合：“Prolific USB-to-Serial Comm Port (COM \*\*)”  
もし、どちらも表示されない場合は、必要な USB ドライバソフトウェアが正しくインストールされていないので、再度、インストールしてください。
4. [決定] ボタンをクリックします。  
COMポートの設定は以上で完了です。

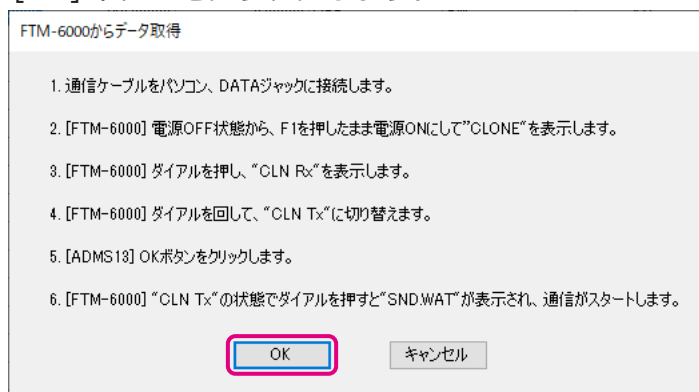
## ・FTM-6000/S からデータ取得

SCU-56 または SCU-20、CT-163 でパソコンと接続した FTM-6000/S の設定内容を ADMS-13 に読み込んで編集することができます。



あらかじめ上記の“COMポート設定”でFTM-6000/Sを接続したCOMポート番号を設定してください。

1. “FTM-6000/S とパソコンを接続する”（6 ページ）を参照して FTM-6000/S とパソコンを接続します。
2. ADMS-13 の画面のアイコン “” をクリックするか、またはメニューバーの「通信」→「FTM-6000 からデータ取得」をクリックします。
3. [F 1] キーを押しながら FTM-6000/S の電源をオンにします。  
【CLONE】と表示されます。
4. FTM-6000/S の DIAL ツマミを押します。  
【CLN RX】と表示されます。
5. FTM-6000/S の DIAL ツマミをまわして【CLN TX】を表示させます。
6. ADMS-13 の画面の [OK] ボタンをクリックします。



7. FTM-6000/S の DIAL ツマミを押します。  
バーグラフが表示されてデータ転送が開始されます。



手順 6 と 7 の操作の順序が逆になるとエラーになります。エラーになった場合は FTM-6000/S の電源をオフにして、もう一度手順 2 からやり直してください。

8. データの転送が完了すると、「Completed」と表示されますので、「Close」をクリックします。  
FTM-6000/S から転送されたデータの内容が ADMS-13 の画面に表示されます。



受信したデータはメニューバーの「ファイル」→「上書き保存」または「名前を付けて保存」をクリックして、ファイル (\*\*\*\*\*. FTM6000) に保存することができます。

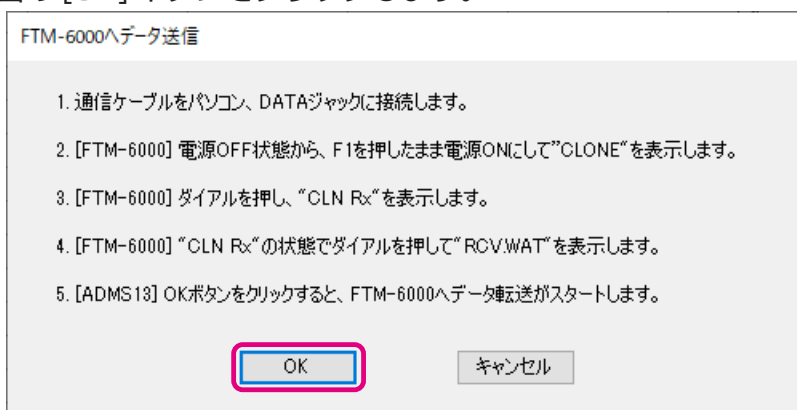
## • FTM-6000/S ヘデータ送信

SCU-56 または SCU-20、CT-163 でパソコンに接続した FTM-6000/S へ ADMS-13 で編集した設定内容を転送することができます。



- あらかじめ“COMポート設定”(9ページ)でFTM-6000/Sを接続したCOMポート番号を設定してください。
- 以前に作成して保存したデータをFTM-6000/Sに送信する場合は、メニューバーの「ファイル」→「開く」をクリックし、希望するファイル(\*\*\*\*\*.FTM6000)を開いてから、以下の操作を行ってください。

1. “FTM-6000/Sとパソコンを接続する”(6ページ)を参照してFTM-6000/Sとパソコンを接続します。
2. ADMS-13の画面のアイコン“”をクリックするか、またはメニューバーの「通信」→「FTM-6000ヘデータ送信」をクリックします。
3. [F 1]キーを押しながらFTM-6000/Sの電源をオンにします。  
【CLONE】と表示されます。
4. FTM-6000/SのDIALツマミを押します。  
【CLN RX】と表示されます。
5. FTM-6000/SのDIALツマミを押します。
6. ADMS-13の画面の【OK】ボタンをクリックします。



バーグラフが表示されてデータ転送が開始されます。

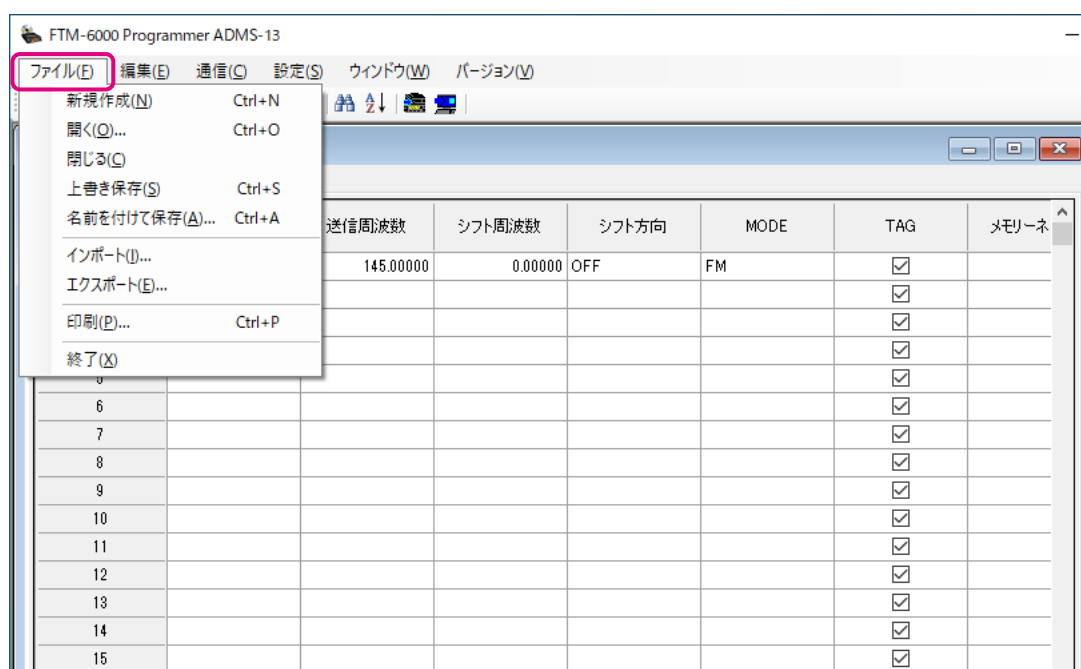


手順5と6の操作の順序が逆になるとエラーになります。エラーになった場合はFTM-6000/Sの電源をオフにしてから、もう一度手順2からやり直してください。

7. データの転送が完了すると、「Completed」と表示されますので、「Close」をクリックします。FTM-6000/Sが、転送したデータで設定されて再起動します。



データの送受信中は、通信ケーブルや電源ケーブルを絶対に抜かないでください。



### • 新規作成

「ファイル」→「新規作成」をクリックすると、新規作成用のテンプレートファイルが開きます。複数のテンプレートファイルを同時に開き、作成することができます。各メモリーや VFO、セットモードには標準の設定値があらかじめ設定されています。

### • 開く

「ファイル」→「開く」をクリックすると、PC に保存されている既存のテンプレートファイルを開くことができます。既存のデータ保存先のフォルダを指定して「開く」ボタンを押します。

### • 閉じる

「ファイル」→「閉じる」をクリックすると、選択されているテンプレートファイルを閉じます。

### • 上書き保存

「ファイル」→「上書き保存」をクリックします。選択されているテンプレートファイルのファイル名を変えずに上書き保存します。

### • 名前を付けて保存

「ファイル」→「名前を付けて保存」をクリックします。選択されているテンプレートファイルをファイル名と保存先のフォルダを指定して、[保存]をクリックして保存します。

### • インポート

CSV ファイル形式（カンマ区切り）で保存したファイルを、メモリー（標準や VFO など）テンプレートごとに読み込み（インポート）できます。インポートできるのはメモリーテンプレートだけで、セットモード設定はインポートできません。

メモリー内容のデータファイルを Excel などの表計算アプリケーションで作成したり編集することができます。インポート用のデータファイルは、メモリーテンプレート毎に CSV ファイル形式（カンマ区切り）で作成します。



通常は ADMS-13 でメモリーテンプレートの内容をエクスポートしたファイルを Excel など  
で編集します。新規で CSV ファイルを作成する場合は、列数をテンプレートファイルと  
同数に設定して、各セルに設定項目に一致する正しいデータを入力する必要があります。

1. インポートするメモリーのタブ（標準や VFO など）をクリックしてテンプレートを開きます。
2. 「ファイル」→「インポート」をクリックして、フォルダを選択してインポートするファイル  
“\*\*\*\*\*.csv”を開きます。

## ・エクスポート

カンマ区切りの CSV ファイル形式でメモリーテンプレート毎に内容をファイルにエクスポート（書き  
込み）できます。

1. エクスポートするメモリーのタブ（標準や VFO など）をクリックしてテンプレートを開きます。
2. 「ファイル」→「エクスポート」をクリックして、フォルダを選択してエクスポートするファイル  
名を “\*\*\*\*\*.csv” を決定して保存します。



CSV 形式で保存したテンプレートファイルの一番右の列は編集しないでください。

## ・印刷

「ファイル」→「印刷」をクリックすると、選択されているテンプレートファイルのデータを印刷する  
ことができます。印刷したい開始行と終了行を設定して [印刷開始] をクリックします。

印刷設定の詳細は、[プリンタ設定] をクリックしてプロパティを参照してください。

印刷

開始行: 1 印刷開始(P)

終了行: 900 キャンセル

プリンタ設定(E)

## ・終了

「ファイル」→「終了」をクリックすると、ADMS-13 が終了します。

保存確認のポップアップ画面が表示された場合は、指示に従って選択して終了します。

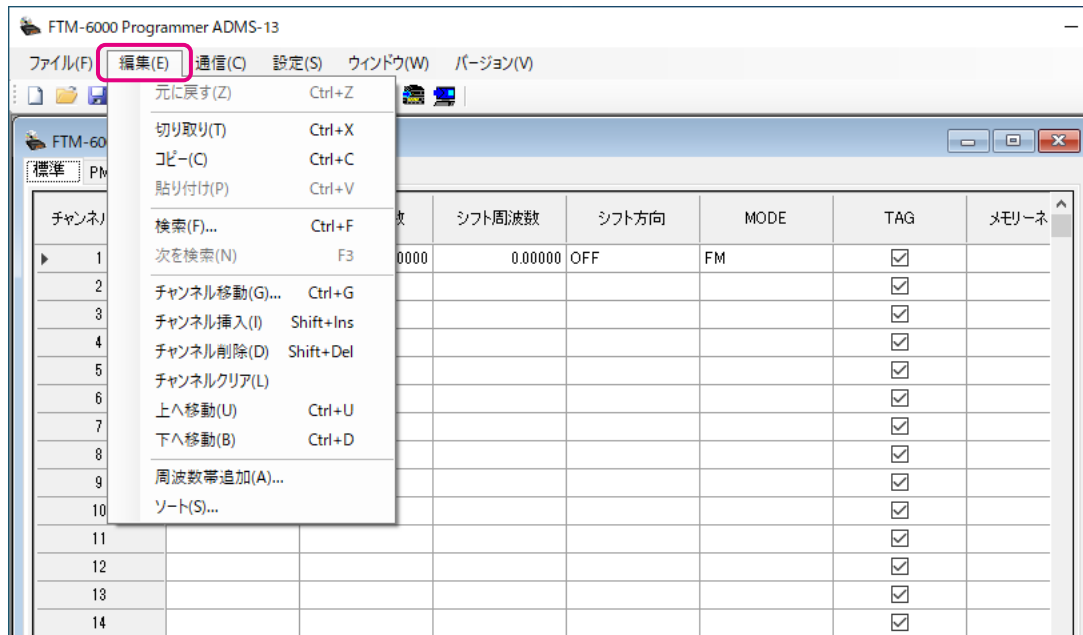
確認

'FTM-6000 Untitled1.FTM6000' への変更を保存しますか?

はい(Y) いいえ(N) キャンセル

## 編集メニュー

編集したい行をクリックして選択してから、以下のそれぞれの操作を行います。



行単位で編集することができます。各行の一部の項目だけを編集をすることはできません。

### • 元に戻す

「編集」→「元に戻す」をクリックすると、編集した内容が一つ前の状態に戻ります。

### • 切り取り

「編集」→「切り取り」をクリックすると、指定した行の内容を切り取ります。

### • コピー

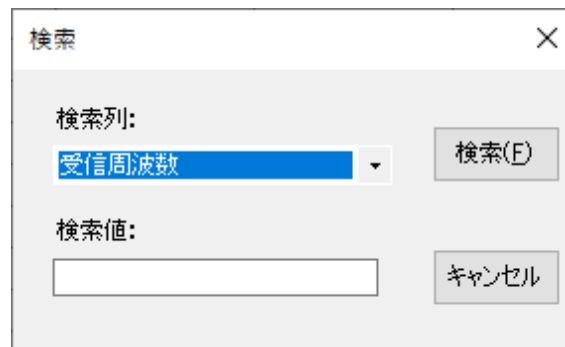
「編集」→「コピー」をクリックすると、指定した行の内容がコピーされます。

### • 貼り付け

「編集」→「貼り付け」をクリックすると、指定した行へコピーした内容を貼り付けます。

### • 検索

「編集」→「検索」をクリックすると、検索画面が開きます。



検索場所の指定、検索テキストを入力し、[検索]をクリックします。  
該当する文字列が見つかった場合は、テンプレートの該当する文字列が反転します。

## ・次を検索

---

「編集」→「次を検索」をクリックすると、検索して該当する文字列の次候補に移動します。

## ・チャンネル移動

---

「編集」→「チャンネル移動」をクリックすると、選択されている行を移動する先のチャンネルを指定する画面が開きます。

希望のチャンネルを入力し、[移動]をクリックすると、選択されている行が指定したチャンネルに移動します。

選択した行が空白、または選択した行と移動後の行が同じ行の場合は、移動後の行が空白になります。

## ・チャンネル挿入

---

「編集」→「チャンネル挿入」をクリックすると指定したチャンネルに新規の情報を挿入します。このとき挿入するチャンネル番号より大きい番号の既存のチャンネルデータは、挿入したチャンネル番号以降にそれぞれ順に移動します。

## ・チャンネル削除

---

「編集」→「チャンネル削除」をクリックすると、指定した範囲のチャンネル情報を削除します。削除した場合、削除された以降の既存チャンネルは、上詰めで移動します。

## ・チャンネルクリア

---

「編集」→「チャンネルクリア」をクリックすると、指定した範囲のチャンネル情報をクリアします。クリアしても以降の既存チャンネルは移動せず、クリアしたチャンネルはそのまま空白になります。

## ・上へ移動

---

「編集」→「上へ移動」をクリックすると、指定したチャンネルの内容を1行上へ移動します。移動先に依存のチャンネルがある場合は、既存チャンネルの内容と入れ替わります。

## ・下へ移動

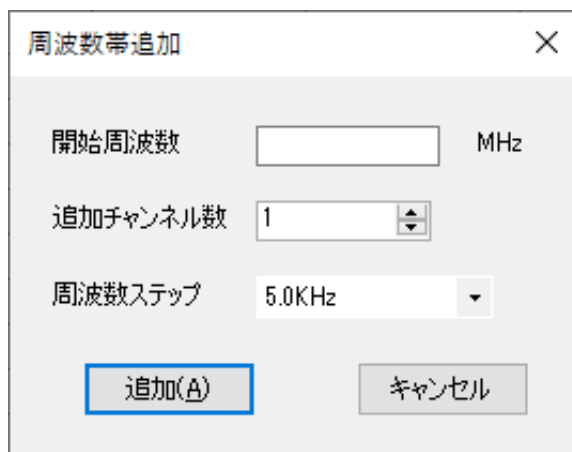
---

「編集」→「下へ移動」をクリックすると、指定したチャンネルの内容を1行下へ移動します。移動先に依存のチャンネルがある場合は、既存チャンネルの内容と入れ替わります。



## ・周波数帯追加

「編集」→「周波数帯追加」をクリックすると、周波数帯追加の画面が開きます。  
開始周波数から指定の周波数ステップで指定のチャンネル数のメモリーチャンネルを追加作成することができます。



開始周波数： 追加する開始周波数を入力します。  
追加チャンネル数： 追加するメモリーチャンネル数を入力します。  
周波数ステップ： メモリーチャンネルの周波数ステップ間隔を入力します。

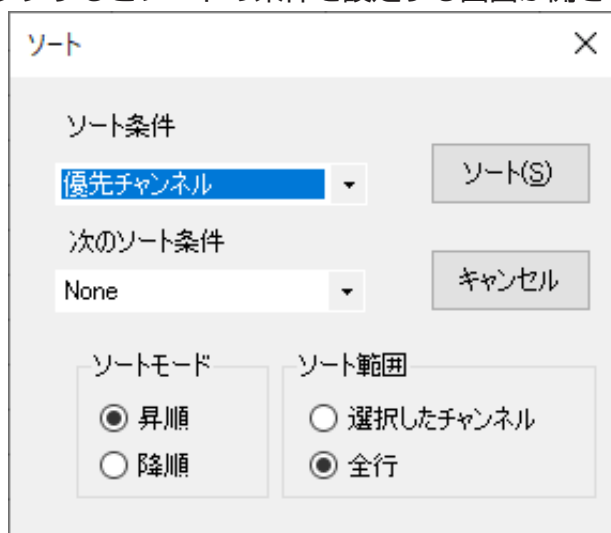
[追加]をクリックすると、指定したメモリーチャンネルが追加作成されます。



周波数ステップ 8.33kHz はエアバンド(108 ~ 136.995MHz)の範囲内で設定できます。

## ・ソート

「編集」→「ソート」をクリックするとソートの条件を設定する画面が開きます。



ソート条件： 周波数順など、1番目のソート条件を選択します。  
次のソート条件： 1番目のソート条件が一致した場合の2番目のソート条件を選択します。  
ソートモード： ソート実行時、順番を昇順、降順にするかを選択します。  
ソート範囲： ソート実行時選択したチャンネル行か、すべてのチャンネル行かを選択します。  
[ソート]ボタンをクリックするとソートを実行します。  
ソート後でも「編集」→「元に戻す」をクリックするとソート前の状態に戻すことができます。

## 通信メニュー (FTM-6000/S との間でデータを取得または送信する)



### • FTM-6000/S からデータ取得

SCU-56 または SCU-20、CT-163 で接続した FTM-6000/S の設定内容を ADMS-13 に転送することができます。

詳しくは “• FTM-6000/S からデータ取得” (10 ページ) を参照してください。

### • FTM-6000/S へデータ送信

ADMS-13 で設定したデータを SCU-56 または SCU-20、CT-163 で接続した FTM-6000/S に送信することができます。

詳しくは “• FTM-6000/S へデータ送信” (11 ページ) を参照してください。

### • COM ポート設定

SCU-56 または SCU-20、CT-163 で接続した FTM-6000/S の COM ポート番号を設定します。

詳しくは “• COM ポート設定” (9 ページ) を参照してください。

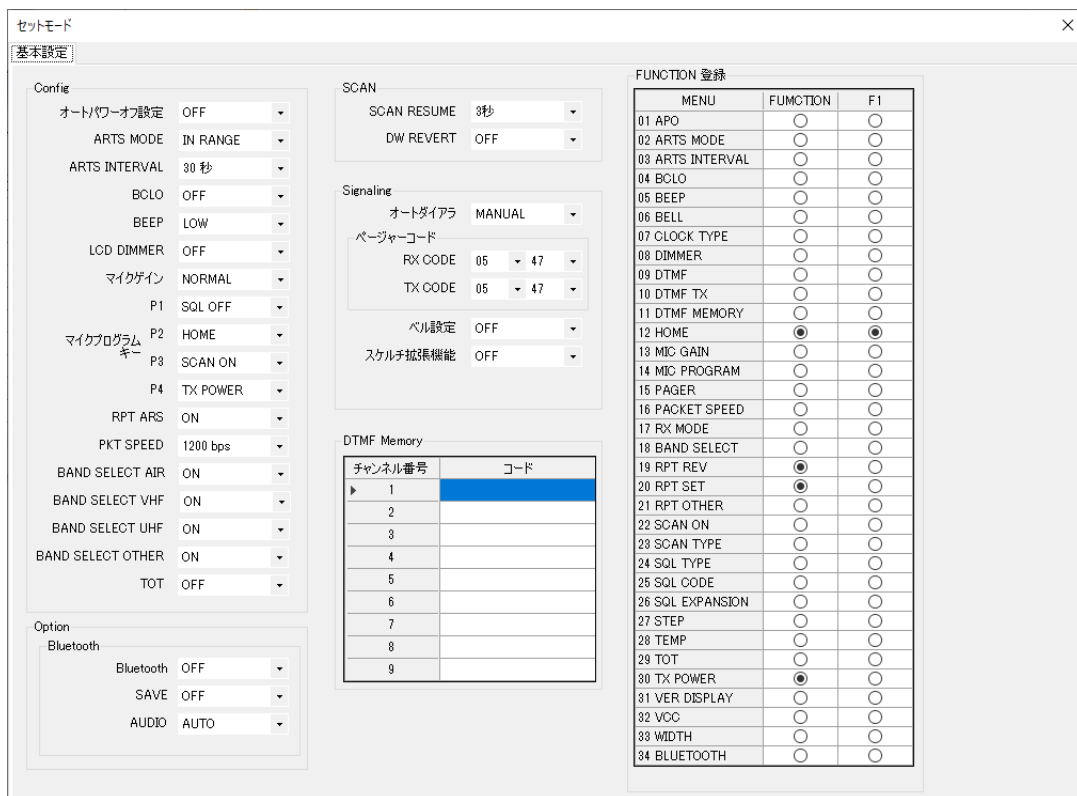
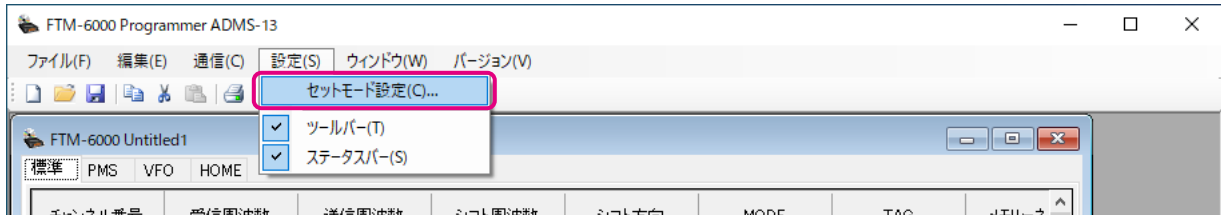


- データの送受信中は、通信ケーブルを絶対に抜かないでください。
- FTM-6000/S やパソコンに接続している電源や電源ケーブルには十分注意し、データの送受信中に絶対に電源が切れないようにしてください。

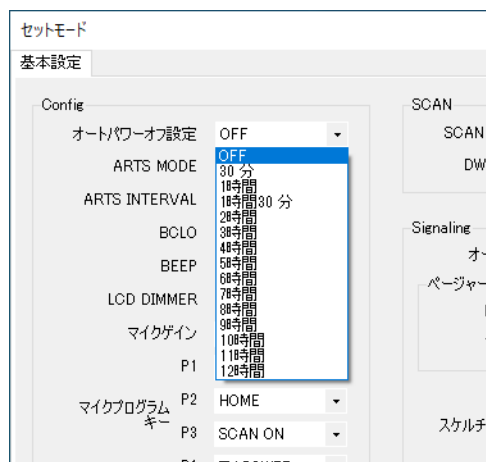
# 設定

## ・セットモード設定

セットモードでは、FTM-6000/S のさまざまな機能を使い方にあわせてカスタマイズできます。ADMS-13 ではセットモードを分かりやすく表示し、設定値を変更、保存することができます。「設定」→「セットモード設定」をクリックするとセットモード画面を開きます。



設定内容の編集は各設定項目の右側の▼タブをクリックして設定値を選択します。  
表示例（オートパワーオフ設定）：



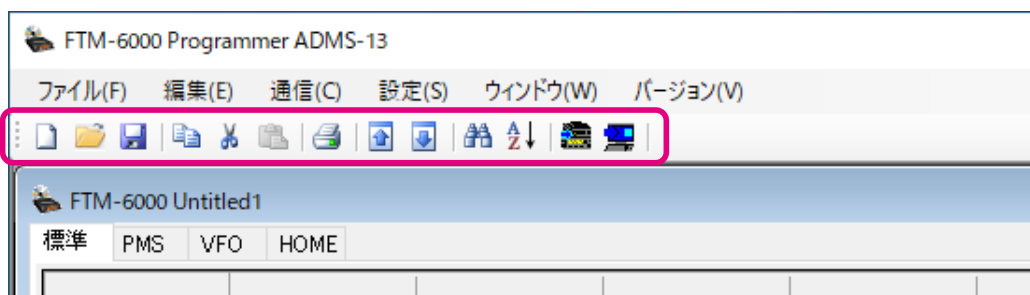
各設定項目の詳細動作については、FTM-6000/S の取扱説明書を参照してください。  
セットモードの設定が終了したら、セットモード設定画面の右上の×をクリックして画面を閉じます。

## ・ ツールバー

---

ツールバーにあるアイコンの表示、非表示を設定します。

「設定」→「ツールバー」のチェックマークを外すとツールバーを表示しなくなります。

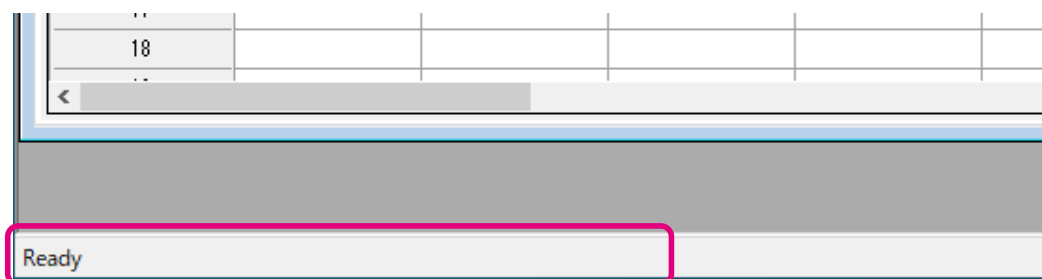


## ・ ステータスバー

---

編集画面下部にあるステータスの表示、非表示設定で、ADMS-13 が現在どのような操作モードであるかを表示します。

「設定」→「ステータスバー」のチェックマークを外すとツールバーを表示しなくなります。



## ウインドウ

---

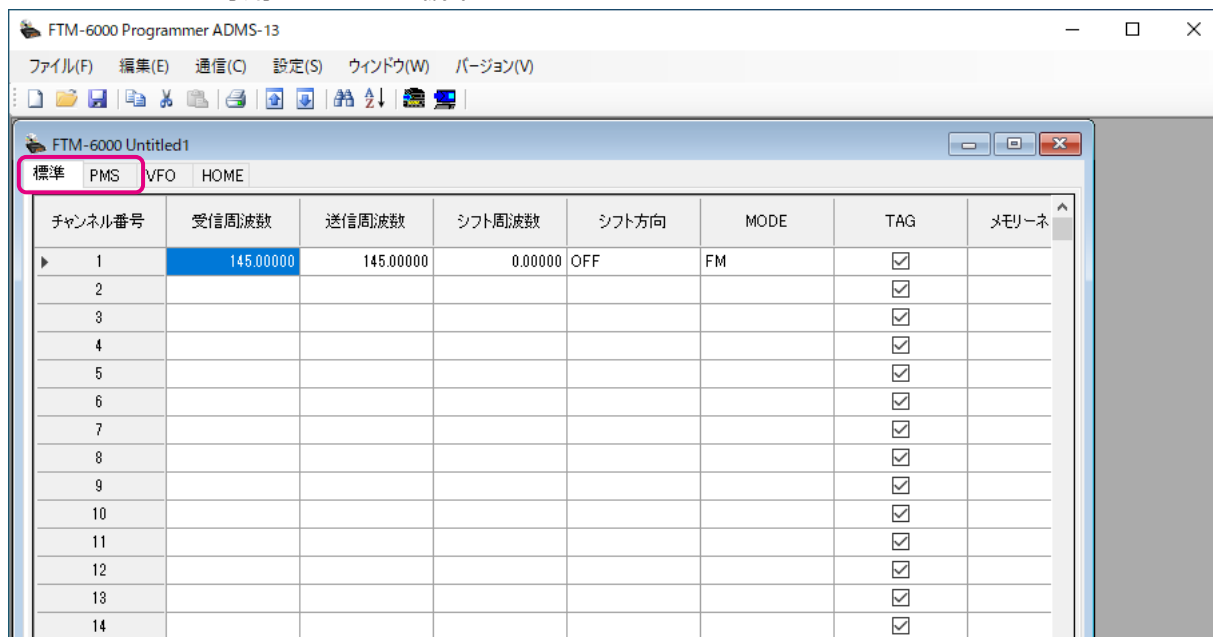
編集画面の表示ウインドウ設定を行います。

- ・ 「ウインドウ」→「重ねて表示」をクリックすると複数のテンプレートファイルを重ねて表示します。
- ・ 「ウインドウ」→「上下に並べて表示」をクリックすると複数のテンプレートファイルを上下に分割して並べて表示します。
- ・ 「ウインドウ」→「左右に並べて表示」をクリックすると複数のテンプレートファイルを左右に分割して並べて表示します。

## 各テンプレートタブの設定項目について

### 標準 /PMS メモリー

標準メモリー /PMS 専用メモリーを編集します。



#### ● 標準メモリータブ

通常使用する周波数のメモリー編集を行います。最大 999 チャンネル登録することができます。

#### ● PMS 専用メモリータブ

PMS（プログラマブルメモリスキャン）を行う際の、上下限周波数を編集します。

L チャンネルに下限周波数、U チャンネルに上限周波数を入力します。最大 50 組（100 チャンネル）の PMS 登録をすることができます。

### 標準 /PMS 専用メモリータブの設定項目について

#### ● 受信周波数

受信周波数を入力します。入力後、→ キーで右の欄に移動し、入力したチャンネルの詳細設定を続けます。ENTER または ↓ キーで次のチャンネルの行に移動します。



受信周波数を入力しないと、その他の項目を設定することができません。

#### ● 送信周波数

送信周波数を入力します。

#### ● シフト周波数

送信周波数を設定しない場合に、受信周波数からシフト周波数分を加減した周波数で送信します。

#### ● シフト方向

シフト方向をセットします。

OFF： 送信時に送信周波数をシフトしません。

－ RPT： 送信時にシフト周波数に設定された分だけマイナス方向にシフトします。

＋ RPT： 送信時にシフト周波数に設定された分だけプラス方向にシフトします。

－ / +： 送信時に送信周波数に設定された周波数で送信します。

## ● MODE

受信するチャンネルの電波形式を選択します。

FM： FM モードで受信します。

AM： AM モードで受信します。

## ● TAG

チェックマークを付けると、FTM-6000/S 本体でメモリーを呼び出したときに、設定したメモリータグ（ネーム）と周波数を表示します。チェックマークを外すと、受信周波数だけを表示します。TAG 表示設定は全てのメモリーチャンネルで共通です。

## ● メモリーネーム

半角最大 6 文字のメモリーネームの入力ができます。使用できる漢字は FTM-6000/S 本体で入力できる文字（大文字のアルファベット、数字、記号）です。

## ● スケルチタイプ

スケルチタイプを選択します。

## ● トーン周波数

トーンスケルチを設定した場合のトーン周波数を選択します。

## ● DCS コード

DCS を設定した場合の DCS コードを選択します。

## ● PR TONE

私鉄の空線信号や、MCA 無線の制御信号等を除去するための空線周波数を選択します。

## ● 送信出力

送信出力の設定を行います。

## ● SCAN

メモリースキャン時にメモリーチャンネルをスキャンするかどうかを設定します。

YES： 設定したメモリーチャンネルをスキャンします。

NO： 設定したメモリーチャンネルをスキャンしません。

## ● ステップ

受信するチャンネルのチャンネルステップを設定します。

## ● Narrow

チェックマークを付けると、送信帯域を通常の約半分に設定する FM ナローモードになります。

## ● Clock Shift

マイコンのクロックによる内部スプリアスを受信してしまう場合、ON にする（チェックを入れる）ことで改善する場合があります。

通常は OFF（チェックを入れない）で使用してください。

## ● コメント

登録したメモリーチャンネルに最大全角 255 文字のコメントを自由に付けることができます。メモリーチャンネルのジャンル別の名称など管理に使用してください。コメントの内容は FTM-6000/S には転送されません。

# VFO

VFO を編集します。



## VFO タブの設定項目について

### ● 受信周波数

VFO 周波数を入力します。ADMS-13 の標準テンプレートには、FTM-6000/S のデフォルトの周波数が設定されています。

バンド区分を越える周波数の入力はできません。エラーメッセージ画面がポップアップするので、正しい周波数を入力してください。

### ● 送信周波数

送信周波数はグレー表示となり、受信周波数を設定するとシフト周波数とシフト方向により自動的に送信周波数が設定され変更できません。

### ● シフト周波数

受信周波数からシフト周波数分を加減した周波数で送信します。

### ● シフト方向

シフト方向をセットします。

OFF： 送信時に送信周波数をシフトしません。

－ RPT： 送信時にシフト周波数に設定された分だけマイナス方向にシフトします。

＋ RPT： 送信時にシフト周波数に設定された分だけプラス方向にシフトします。

### ● MODE

受信するチャンネルの電波形式を選択します。

FM： FM モードで受信します。

AM： AM モードで受信します。

### ● スケルチタイプ

送受信するチャンネルのスケルチタイプを選択します。

### ● トーン周波数

トーンスケルチを設定した場合のトーン周波数を選択します。

### ● DCS コード

DCS を設定した場合の DCS コードを選択します。

### ● PR TONE

私鉄の空線信号や、MCA 無線の制御信号等を除去するための空線周波数を選択します。

### ● 送信出力

送信出力の設定を行います。

- **AUTO STEP**

ここにチェックマークを付けると、周波数帯にあわせて最適な周波数ステップ（DIAL ツマミをまわしたときの周波数変化量）に自動で切り替わるオートステップに設定できます。チェックマークを外すと、ステップの周波数設定を選択できるようになります。

- **ステップ**

受信するチャンネルのチャンネルステップを設定します。

- **Narrow**

チェックマークを付けると、送信帯域を通常の約半分に設定する FM ナローモードになります。

- **Clock Shift**

マイコンのクロックによる内部スプリアスを受信してしまう場合、ON にする（チェックを入れる）ことで改善する場合があります。

通常は OFF（チェックを入れない）で使用してください。

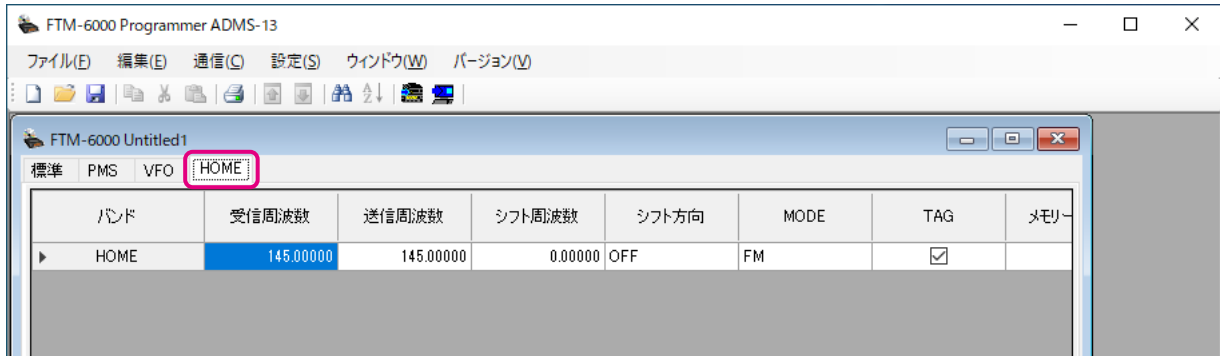
- **コメント**

編集した VFO に最大全角 255 文字のコメントを自由に付けることができます。コメントの内容は FTM-6000/S には転送されません。



# HOME

HOME チャンネルを編集します。



## HOME タブの設定項目について

### ● 受信周波数 / 送信周波数

HOME チャンネル周波数を入力します。ADMS-13 の標準テンプレートには、FTM-6000/S のデフォルトの周波数が設定されています。

バンド区分を越える周波数の入力是不可能です。エラーメッセージ画面がポップアップするので、正しい周波数を入力してください。受信周波数を入力すると自動的に送信周波数が設定されます。

### ● シフト周波数

送信周波数を設定しない場合は、受信周波数からシフト周波数分を加減した周波数で送信します。

### ● シフト方向

シフト方向をセットします。

OFF： 送信時に送信周波数をシフトしません。

－ RPT： 送信時にシフト周波数に設定された分だけマイナス方向にシフトします。

+ RPT： 送信時にシフト周波数に設定された分だけプラス方向にシフトします。

－ / +： 送信時に送信周波数に設定された周波数で送信します。

### ● MODE

受信するチャンネルの電波形式を選択します。

FM： アマチュア無線、情報無線の通常の帯域幅に使用します。

AM： 航空無線等に使用します。

### ● TAG

チェックマークを付けると、FTM-6000/S 本体で HOME チャンネルを呼び出したときに、設定したメモリータグ（ネーム）と周波数を表示します。チェックマークを外すと、受信周波数だけを表示します。TAG 表示設定は全てのメモリーチャンネルで共通です。

### ● メモリーネーム

最大半角 6 文字のメモリーネームの入力ができます。使用できる漢字は FTM-6000/S 本体で入力できる文字（大文字のアルファベット、数字、記号）です。

### ● スケルチタイプ

送受信するチャンネルのスケルチタイプを選択します。

### ● トーン周波数

トーンスケルチを設定した場合のトーン周波数を選択します。

### ● DCS コード

DCS を設定した場合の DCS コードを選択します。

### ● PR TONE

私鉄の空線信号や、MCA 無線の制御信号等を除去するための空線周波数を選択します。

- **送信出力**

送信出力の設定を行います。

- **ステップ**

受信するチャンネルのチャンネルステップを設定します。通常は、周波数を入力するとチャンネルステップは、その周波数に応じた最適なステップに自動的に設定されます。

- **Narrow**

チェックマークを付けると、送信帯域を通常の約半分に設定する FM ナローモードになります。

- **Clock Shift**

マイコンのクロックによる内部スプリアスを受信してしまう場合、ON にする（チェックを入れる）ことで改善する場合があります。

通常は OFF（チェックを入れない）で使用してください。

- **コメント**

編集した HOME チャンネルに最大全角 255 文字のコメントを自由に付けることができます。コメントの内容は FTM-6000/S には転送されません。

## トラブルシューティング

### FTM-6000/S と通信またはデータの読み書きができない

---

- PC コネクションケーブル SCU-56 または SCU-20、CT-163 で FTM-6000/S とパソコンが正しく接続されていますか？  
正しく接続してください。
- PC コネクションケーブル SCU-56 または SCU-20 の USB ドライバーがインストールされていますか？  
インストールしてください。
- 通信用の COM ポートが正しく設定されていますか？  
FTM-6000/S が接続されている COM ポート番号を正しく設定してください。
- ADMS-13 日本語版は、日本国内向けの FTM-6000/S 専用です。海外仕向けの FTM-6000R/E とデータの読み書きすることはできません。
- 通信メニューの「FTM-6000 からデータ取得」をクリックして、画面に表示される手順とは異なる順序で操作していませんか？  
表示されている手順の順序に従って、操作してください。
- 通信メニューの「FTM-6000 へデータ送信」をクリックして、表示される手順とは異なる順序で操作していませんか？  
表示されている手順の順序に従って、操作してください。

### データの送受信が途中で止まってしまった

---

- 通信ケーブルが途中で抜けてしまったか、接触不良ではありませんか？  
接続を確認して最初からやり直してください。

### データのインポート / エクスポートがうまくいかない

---

- インポート / エクスポートする CSV ファイルの列数を合わせてください。
- 対応するセルに入力する文字列を指定の文字にしてください。
- インポート / エクスポートするメモリー / VFO などのテンプレートファイルを一致させてください。  
異なるテンプレート間でインポート / エクスポートするとエラーとなり正常に動作しません。



本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート  
電話番号 0570-088013  
受付時間 平日9:00～12:00、13:00～17:00

---

八重洲無線株式会社 〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル

---